

## いつもありがとう

大鳥 秀高

ぼくは、朝起きるのがすごくすごく苦手です。ぼくの目覚ましは二台あります。その目覚ましは時計屋で一番音が大きいものを小学校に入学するときにお父さんが買ってくれました。その大きな音は、家の外まで聞こえるほどです。しかし、ぼくは全く聞こえません。あまりにも目覚ましの音がうるさいので、お父さんがやさしく起こしにきてくれます。でも、まだぼくは起きません。二回か三回お父さんはやさしく起こしてくれれます。しかし、まだぼくは寝たままなので、たまりかねて今度はお母さん

がやってきました。そして、お母さんがかいじゅうのような大きな声で、

「起きろ！」「いつまで寝てるのあんたは！」

とどなります。でも、まだまだぼくは起きません。困り果ててお母さんは最後の必殺技をくり出します。それは、お母さんの全体重をかけた柔道の寝技です。ぼくがどんなに逃げようとしても、おさえこんで離しません。

「助けて！」「もう起きるから助けて！」

ぼくは一瞬にして目が覚めます。いつも根気よく起こしてくれてありがとう。もうすこし早く起きるようになるから。